

第 33 回「人文知」コレgium

書物が語る 遺物が語る

11 月 22 日(火) 13:30～15:30
人文学部第六講義室

帝^{ほろ}亡びて風雅在り —近代富山の漢詩人・岡崎^{らんでん}藍田が見た中国—

大野圭介(中国言語文化・教授) 13:30～14:30

富山では江戸時代に続いて明治期以後も多くの知識人が漢詩文を学び、創作を競い合っていました。岡崎藍田(本名・佐次郎、1861(文久1)年～1939(昭和14)年)もその一人で、婦負郡会議員や衆議院議員を務める一方、詩文書画をよくし、越中漢詩壇の重鎮の一人でもありました。

1926(大正15)年、長男の文夫が欧州留学の帰途北京に立ち寄ったのを機に藍田を中国に呼び寄せ、各地の名所旧跡とともに旅しました。かねてから憧れてやまなかった、詩文にうたわれる唐土の風雅。しかし現実の中国は混迷が続き、清朝の廢帝溥儀もついに紫禁城を追い出され、二千年に及んだ「皇帝の中国」は名実ともに終焉を迎えていました。藍田の目に映った中国とは——その漢文による旅行記『燕鴻越鳥縦遊日誌』と漢詩集『燕鴻越鳥詩艸』から読み解きます。

絵馬はいつから? —出土絵馬の研究と初期の絵馬—

次山 淳(考古学・教授) 14:30～15:30

願いごとを託す道具としての「絵馬」は、今日私たちの暮らしの中に広く根づいていると言ってよいでしょう。では、小さな板絵である「絵馬」は、いったいいつ頃、どのような姿でこの日本列島に登場したのでしょうか?

「絵馬」という言葉のみえる最も古い文献史料は、平安時代中頃の「北野天神供御幣并種々物文」(『本朝文粹』巻第十三)とされています。これに対して考古学による発掘調査は、1972年に静岡県伊場遺跡で奈良時代のもと考えられる馬の板絵が発見されて以降、着実にその歴史を遡らせてきました。

今回の報告では、遺跡から出土する古代の絵馬研究の実際と、明らかにされてきた初期の絵馬の姿についてお話してみたいと思います。

事前申込をお願いいたします。(聴講無料)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Pxqw12Ujs0iFczfbm9gJuKf>

[UOTK-JFJEvf-f0mqex9URUdW0E1aWEQwVTNKVzhaSTJRV1EwTUZDQS4u](https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=UOTK-JFJEvf-f0mqex9URUdW0E1aWEQwVTNKVzhaSTJRV1EwTUZDQS4u)

申込締切後、登録されたメールアドレスに詳細をお送りします。メールアドレスに誤りがあると案内をお送りすることができませんので、ご注意ください。

前日までに連絡がない場合は、下記総務課にお問い合わせください。



申込締切: 2022 年 11 月 20 日(日)
学生・一般の方の聴講を歓迎いたします

お問い合わせ
富山大学人社芸術系総務課 (人文担当)
jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp